

製品名: ムスクマウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM85969**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウムを含む TBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:500
分子量	96.7kDa

抗原情報

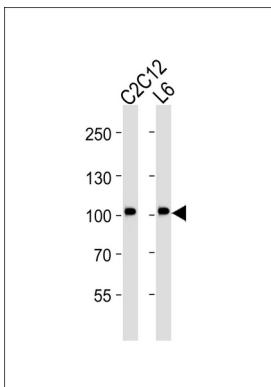
遺伝子名	Musk
別名	Muscle, skeletal receptor tyrosine-protein kinase, Muscle-specific tyrosine-protein kinase receptor, MuSK, Muscle-specific kinase receptor, Musk, Nsk2
遺伝子 ID	18198.0
SwissProt ID	Q61006
免疫原	このマウス マスク抗体は、マウス マスクの組み換えタンパク質で免疫化されたマウスから生成されます。

背景

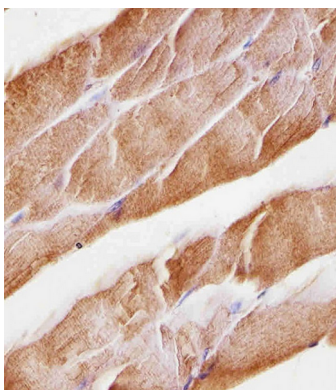
神経筋接合部 (NMJ)、運動ニューロンと骨格筋の間のシナプスの形成と維持に中心的な役割を果たす受容体チロシンキナーゼ。LRP4による AGRIN の MUSK シグナル伝達複合体へのリクルートは、複合体のキナーゼである MUSK のリン酸化と活性化を誘導する。筋管における MUSK の活性化は、シナプス下核における遺伝子の特異的発現、アクチン細胞骨格の再編成、シナプス後膜におけるアセチルコリン受容体 (AChR) のクラスター形成など、さまざまなプロセスの調節を介して NMJ の形成を制御する。ABL1 および Src ファミリーキナーゼの活性化を介して AChR のリン酸化とクラスター形成を制御し、次に MUSK を制御する可能性がある。MUSK と三量体複合体を形成する DVL1 および PAK1 も、MUSK 依存性の AChR クラスター形成の制御に重要である。FNTA を介して Rho ファミリー GTPase を正に制御する可能性がある。FNTA のリン酸化を媒介し、プレニル化、膜へのリクルートメント、そしてアクチン細胞骨格および遺伝子発現の調節因子である RAC1 の活性化を促進する。MUSK シグナル伝達の他のエフェクターとしては、MUSK の下流で機能する DNAJA3 が挙げられる。また、コリン作動性反応、シナプス可塑性、記憶形成を媒介することで、中枢神経系において役割を果たす可能性がある。

研究分野

画像データ



C2C12、L6 細胞株 (左から右へ) のライセートのウェスタンブロット解析。Musk 抗体を用いた。各レーンには Musk マウスモノクローナル抗体を 1:2000 に希釈した。二次抗体として、ヤギ抗マウス IgG H&L(HRP)を 1:3000 に希釈したものを使用した。ライセートは 1 レーンあたり 20 μ g。



ムスク抗体 (カタログ番号 AMM85969) を用いたパラフィン包埋筋骨格筋切片の免疫組織化学染色。AMM85969 は 1:25 に希釈した。二次抗体としてビオチン化ヤギ多価抗体 (未希釈) を用い、DAB 染色を行った。